

## 2016 年度 小委員会活動成果報告

(2017 年 2 月 20 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：山崎鯛介 就任年月：2014 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：後藤 治 主 査 名：
設 置 期 間	2014 年 4 月 ～ 2018 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(目的 1) アーカイブズ・ネットワークの確立</li> <li>・(目的 2) 収集・整理・公開のための共通の方法論の検討 (2014 年度)</li> <li>・学会大会(近畿) PD にて「近現代建築資料全国調査特別 WG」報告</li> <li>・「近現代建築資料全国調査特別 WG」の今後の対応の確認・追跡調査の継続 (2015 年度)</li> <li>・建築資料ネットワークの構築と危機資料への対応の検討 (2016 年度)</li> <li>・建築アーカイブズの特徴と課題の検証</li> <li>・近現代建造物緊急重点調査事業(文化庁) 対応 WG への協力</li> <li>・戦後建築の価値に関するクライテリアを検討・提案</li> <li>・学会大会(九州) 研究協議会テーマ「建築博物館構想」における建築アーカイブズの役割について検討 (2017 年度)</li> <li>・3 年間の追跡調査結果・近現代建築資料の現状の報告</li> <li>・今後の建築アーカイブズのあり方についてのシンポジウム</li> </ul>	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：無し (主査) 山崎鯛介(東京工業大学 環境・社会理工学院建築学系) (幹事) 加藤雅久(居住技術研究所) (幹事) 戸田穰(金沢工業大学) (委員) 笠原一人(京都工芸繊維大学大学院 工芸科学研究科造形科学系建築造形学部門) 倉方俊輔(大阪市立大学 大学院工学研究科都市系専攻) 齋藤歩(京都大学総合博物館) 志岐祐一((株)日東設計事務所 まち・デザイン研究室) 辻泰岳(日本女子大学住居学科) 津村泰範(長岡造形大学 造形学部 建築デザイン学科) 早川典子(東京都美術館) 増田泰良(東京工業大学附属科学技術高等学校) 本橋仁(早稲田大学 理工学部建築学科)	
設置 WG (WG 名：目的)	無し	
2016 年度予算	170,000 円	ホームページ公開の有無： 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	0 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パ ブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得ら れた成果との関係)</p>	<p>1. 2016 度は委員会を開催することができなかった 2. メール審議において建築アーカイブズに係る段階的方法論の必要について議論した 3. 「目的 1」について、山崎委員（主査）が 2016 年度建築学会大会（九州）建築歴史・意匠部門研究協議会「国立近現代建築資料館を国立建築博物館に - ネットワークでつなぐ新しい博物館のかたち 建築歴史・意匠編」にパネリストとして出席した他、国立近現代建築資料館と建築学会とのネットワークのあり方について意見交換を行った。 4. 「目的 2」について、加藤雅久委員（幹事）がアーカイブズ学会やアートドキュメンテーション学会の会員諸氏と意見交換や情報交換を行い、また国際文書館評議会ソウル大会に参加してアーカイブズの国際的な動きを収集し、国家記録院、蔵書閣、ソウル市内各資料館の建築資料を視察した 5. 山崎委員（主査）が「近現代建造物緊急重点調査事業（文化庁）対応 WG」の主査に就任し、また同事業の神奈川県 WG 委員および調査委員会委員として事業に参加した。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 文化庁国立近現代建築資料館等のアーカイブズ組織ならびに企業官公庁等の建築資料管理者との連携における本会の果たすべき役割の検討 2.</p>